



-255

急救医法

明治十年
五月吉日

下南
義和團
德藏

490.7
KY-6

丹波國宮津

110
2909
121255



富士川文庫

1693

三文章臺

重藏用

老松亭より名松に寄る丹波國
お河乃決、あて、水、所、下、り、て、

叙

施本主 獅子頭

予謹と。賜民藥方と刺と是則

政府濟世の賜方也。人の世に居る蓋病傷少くは然るも躬

自其良方知人鮮。街巷の人と雖も病を踏後、寔く

而を況や邊鄙は人々や是を以て急備の切なり。苗の秀る

が如く。或は秀て実さるるに似し。爰ふ

政府の仁政日新なり。膏澤赤子にあふ。給る事度太く至

柳此良方と大都田野の諸品あて至賤兒女も製し易く。生活術も

亦尋常は半中て其切なるに似し。誠小非常は靈方なり。嗚呼

我是方。名家の奥我良醫は秘旨也。予郷黨此遇。達府へ

時不足方施し。忽然として全活と最希世の神方なり。今幸ふ

竟天を戴き國恩を被服と云ふも。素より固陋の見如何ぞ
萬分を奉言せん哉謹て是方以三復と云ふ。世に所傳良藥秘術
と號稱す。その方敢て化は不免も豈此の才か。夫四海は水
九洲の廣必何ぞ人不知て普く急は傳へんや。仍て是を待て付
家々小傳人戸々曉えんと。敢て國恩を奉言と云ふ。八廣幾ハ
與衆共ふ足る由も亦弗畔る事歟。且予歷代所傳の短方も亦
卷末に記て世に示さんと。予と以て方々廣く云ふと云爾。

文化辛未年正月

奥州須加川

阿部正右衛門正興



○大人小兒急病或は急難を救ひ治する秘方は左に記す者也

- 一 病大に喰れざるは。早速杏仁を煮く。る粉炒て杜松は。ば。痲は。れ。大小
は。小。隨。ひ。錢。や。と。小。も。基。石。や。と。も。し。て。味。香。を。灸。く。と。く。灸。を。れ。ば。杏。仁。の
中へ血を吸込かり。此のよく後夜も取入血止。と。痲。は。い。さ。の。肘。止。て。は。
若。底。沙。く。血。止。と。も。毒。を。杏。仁。の中へ吸。と。み。後。の。患。は。し。痲。は。人。を。と。
な。ふ。○ 唐。仁。の。大。さ。但。一。兩。を。厚。く。中。を。か。き。腐。し。て。艾。を。山。ま。ま。に。
痲。く。ち。ふ。湯。水。の。清。く。る。を。忘。む。なり。又。杏。仁。の。こ。ろ。く。さ。の。湯。水。に。
皮。を。去。り。うち。れ。肉。を。刻。て。炒。は。す。一 痲。は。小。風。の。あ。る。を。大。の。は。は。
一 荳。を。搗。き。あ。り。け。を。一。を。い。づ。七。日。ゆ。く。に。飲。ま。せ。く。四。十。九。日。ま。で。お。七。搗。き。
一 毒。と。き。る。毒。う。ち。入。事。は。し。一 又。升。麻。葛。根。湯。を。吞。む。の。は。し。
一 又。小。交。是。と。い。ふ。と。極。め。忌。む。
一 胡。麻。一。麻。仁。一。あ。づ。き。一。あ。づ。き。け。れ。一。里。い。も。一。さ。う。を。ん
一 福。き。一。の。ひ。る。一。つ。け。れ。一。あ。づ。き。一。ち。り。と。一。かり。ひ。る。
一 生。奥。一。川。集。○ 此。外。お。く。く。ま。れ。自。ひ。あ。る。の。

右を百日の間を度くする。酒これに至るまで大毒に二年を度く。
太肉これ一代くする。

一指のしきみ。ひきうそつまをみ。其外ゆても骨をとりつぎ付ては
他一髪の中よりてとりしきみ。ひきうそつまをみ。其外ゆても骨をとりつぎ付ては

一 移づる。蛇のしきみを焼く。焼くはて胡麻の油とてとれ付ては

一 煎は。咬き。うさ。猫のしきみ。又糞をとり付ては

一 又うさ。きり。虫の糞。下。飯。は。ぶ。あ。て。移。り。付。て。は

一 又麴のけする。肉。を。すり。付。て。は

一 又梅のたけ。と。破。あ。て。すり。付。て。は

一 移。ど。その。小。使。目。ふ。入。る。猫。の。し。き。み。を。は。に。入。て。は

一 猫。は。咬。き。う。さ。ふ。落。茅。の。け。を。は。に。一。丈。の。毛。を。焼。け。る。も。は

一 又大の糞をねりもは

一 浅。個。ふ。は。ま。り。う。さ。ふ。猫。の。り。が。吞。て。は

一 又あぶ。と。破。を。吞。も。は。足。へ。胸。う。る。れ。ゆ。あ。は。き。う。さ。と。移。り

一 乳のしき。う。さ。岩。百合。の。根。と。う。移。破。あ。て。と。き。付。て。は

一 突。目。ふ。六。蠅。の。の。こ。ま。を。飯。粒。あ。て。能。あ。い。交。を。乳。汁。あ。て。と。う。り。と。移。り。合。せ

一 目。ふ。は。に。て。は

一 又あ。け。び。の。蔓。の。新。芽。を。う。り。せん。下。洗。う。は

五

A circular stamp or seal, possibly a library or ownership mark, located in the upper right corner of the page. It appears to contain some text or a logo, but the details are too faint to discern.

○

三

4の

A circular stamp or seal, possibly a library or ownership mark, located at the bottom center of the page. It appears to contain some text or a logo, but the details are too faded to discern.

一五疳の根を煮て実ともにて煮焼して味を入るまで鰯のうぶを
 煮てのちゆぶ

一舌胎の昆布を煮焼して紅粉をてきた分ぬりては

一寸白ゆと五八疳のうぶを煮焼して煮痛変もなへ奇効あり

一疳瘡の妙小豆を煮豆をへきと甘酢を加へ水まで煮て毎日此汁を吞
 豆をへき付ハ妙は疳瘡のしほうそり流しとえ吞豆へきと至る時

一ほう瘡の妙ほうほうのうぶの煮干とせん香をて一夜のうぶ山
 むげるの妙なり 一疳瘡のうぶの煮干とせん香をて一夜のうぶ山
 はゆとよりほうほうのうぶの煮干とせん香をて一夜のうぶ山

一疳瘡の妙ほうほうのうぶの煮干とせん香をて一夜のうぶ山
 はゆとよりほうほうのうぶの煮干とせん香をて一夜のうぶ山

一辰砂 一麝香 五釐 一トウゴ、三十六粒 カハカリ
 右の二味五月音の初より時と味の茶を清浄なる板まで糊を押さう

トウゴを竹篋までおきて二味の茶をひとろふ交ぜ清浄なる密物お入れ
 密物お入れと後圖の通り小児の十ヶ所を以て端午の午は刻
 右茶を煮 此のてに茶 茶葉を煮

一頭上の中

一後チリケ

一左右手の折目

一胸の中

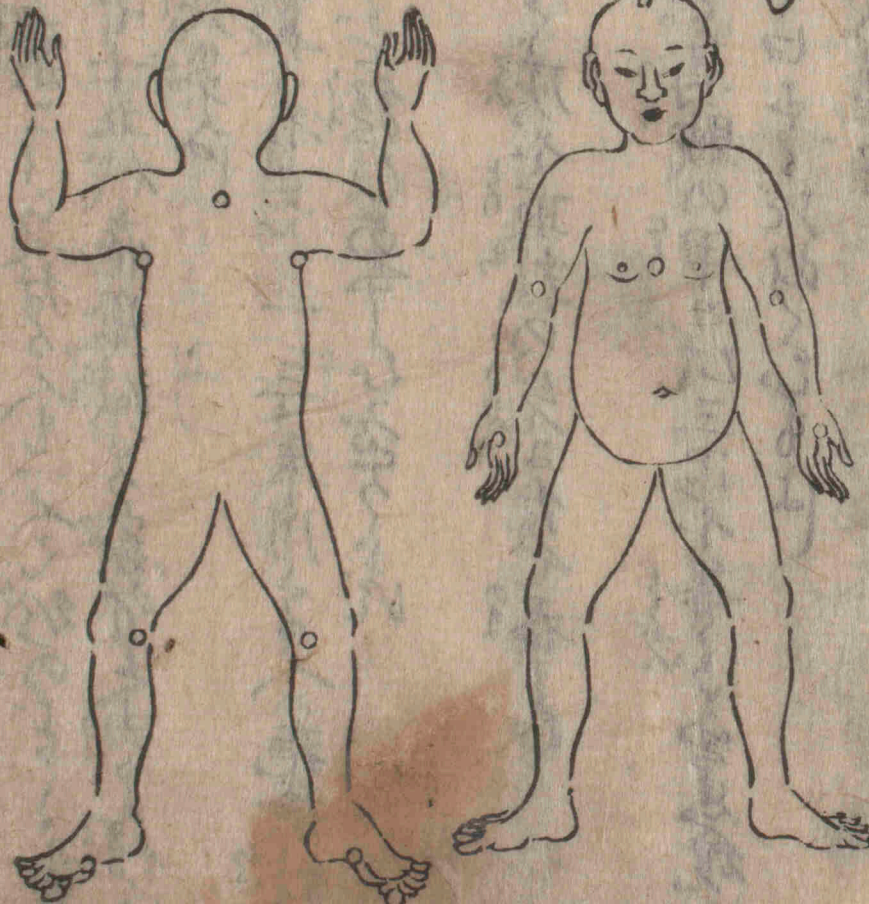
一左右脇の下

一左右足の折目

一左右掌の中

一左右足の平

一此法を用ひし人なり 此法を用ひし人なり 此法を用ひし人なり
 此法を用ひし人なり 此法を用ひし人なり 此法を用ひし人なり



○
一 小便不通。うしこ虫を煮く飯。お灸。肝へ透す。一 通海のもの。

○
一 白朮。はとうりのあはれ。胡麻の油。めて付てもは。

一 又 薑の。焼。を胡麻の油。めて付てもは。

○
一 狐臭。あ。をとりて。服の。へ。は。て。る。也。穴。の。あ。か。ら。ぬ。なり。其。更。へ。灸。す。一 田。螺。の。壳。を。粉。ち。て。付。る。も。は。

○
一 候。痺。ま。酒。を。入。ら。む。妙。也。一 又 赤。蓼。を。粉。ち。は。し。粉。は。て。吹。入。て。は。一 又 密。掛。の。葉。焼。か。粉。は。て。吹。入。て。は。

一 又 ち。ろ。ぎ。れ。あ。苦。練。を。酒。あ。て。せ。付。て。は。

一 又 ち。ろ。ぎ。れ。あ。苦。練。を。酒。あ。て。せ。付。て。は。

一 又 里。の。も。と。土。を。あ。ら。せ。焼。て。粉。は。し。か。み。の。あ。ら。せ。付。て。は。

一 又 旅。子。の。お。を。せ。ん。付。て。は。

一 又 旅。子。の。お。を。せ。ん。付。て。は。

一 中。暑。霍。乱。の。療。治。小。児。の。夏。の。病。を。一。寸。や。ど。つ。ふ。刺。し。て。氣。を。殺。す。又。を。

後。痛。し。め。え。苦。し。み。又。ハ。チ。ハ。チ。痛。さ。け。ひ。腹。石。の。と。く。お。こ。り。腫。の。類。ひ。

あり。これ。大。方。中。暑。霍。乱。と。す。や。ハ。チ。痛。さ。け。ひ。腹。石。の。と。く。お。こ。り。腫。の。類。ひ。

ひ。き。と。り。死。と。る。小。児。を。は。し。星。を。治。す。る。の。妙。ハ。常。に。小。ま。ま。の。せ。あ。を。た。り。え。

面。で。右。の。病。と。う。ん。ち。あ。小。ま。ま。の。せ。あ。を。一。寸。や。ど。つ。ふ。刺。し。て。氣。を。殺。す。又。を。

一 方より中暑霍乱なる此方妙なり。梅子酢を煮て飲む
 一 又夏月暑氣よりなる腹を痛める者。みょうぎを煮て飲む。熱は傷みやす拭を
 一 又人家に下りてあるも。お合ふは。付途中に。暑中。息後。なる者
 一 中へ小便をさせし。此。内。温。息。生。姜。蒜。を。求。め。その。う。ち。一。ふ
 一 ぬ。ぶ。嚙。む。と。は。し。す。熱。き。湯。を。飲。ま。す。

一 一。月。に。死。する。者。ハ。早。く。尿。を。瀉。す。熱。火。妙。まれ。包。を。胸。に。あ。せ。む
 一 一。一。度。冷。ま。す。又。あ。き。尿。を。瀉。す。だ。ん。き。の。あ。る。や。う。に。温。め。息。を。

一 一。麻。疹。の。う。ち。に。せ。ぬ。あ。ふ。あ。ふ。と。ひ。や。さ。ぬ。や。う。に。酒。肉。と。房。事。を。あ。く
 一 一。一。に。い。る。一。又。も。ら。ふ。と。經。氣。あ。る。ぬ。か。う。お。け。じ。え。ば。麻。疹。と。ぬ。く
 一 一。一。奇。妙。ふ。か。り。

一 一。又。小。豆。も。豆。緑。豆。い。と。赤。豆。ふ。い。に。少。一。甘。州。を。加。常。の。さ。う。加。減。お
 一 一。水。を。入。せ。る。春。あ。き。て。奇。妙。ふ。か。り。

一 一。又。芭。蕉。の。葉。を。せ。る。中。其。湯。を。煮。湯。の。に。置。て。大。ひ。お。け。し
 一 一。右。左。松。ら。も。に。麻。疹。の。前。は。お。け。し。け。一。く。毒。忌。め。一。の。う。ち。の。ま。だ。

一 一。又。妊。娠。の。婦。人。に。一。熱。火。と。わ。り。ぬ。飲。の。刃。れ。古。衣。を。着。ろ。小。腹。へ。布。を。帯。を
 一 一。い。に。並。み。替。へ。熱。を。う。り。取。め。け。を。解。り。ち。出。生。の。子。急。は

一 一。自。縊。く。懸。つ。て。あ。る。者。ハ。そ。ろ。く。と。抱。を。死。し。ぬ。ふ。れ。更。に。仰。け。固。く。て
 一 一。を。一。と。あ。り。襤。を。切。く。荒。く。落。と。べ。う。に。ま。づ。拘。を。お。き。入。咽。の。後。で。る。正
 一 一。と。お。け。り。中。一。ま。で。り。つ。て。和。ろ。中。に。と。自。昇。を。お。き。た。あ。人。あ。て。牛。の。糞。を
 一 一。あ。て。あ。方。の。耳。れ。中。を。吹。へ。し。を。人。の。髪。の。毛。を。ま。け。く。し。て。し
 一 一。又。別。人。を。以。て。と。足。次。不。絶。撫。で。て。延。が。め。と。す。一。又。腹。を。あ。て。し。

此のどくふしと息あがり粥の湯を吞むと色一
藥鶏のとさろの血を多りては中々入る
但男が少く雄の血をりちひ女が少く雄の血をりちひ
此れこれべうみぐえつたり。

一 出火の節煙ふりせ倒さるゆゑ大根のちどりけを吞むと色

一 物下て途中より氣が持合せざる時きざらある者のゆゑと割て息を
吹入すと色。

是方已行丁封内七年於茲此

政府所以加惻隱於庶民矣經驗最之餘徵也
摘略是方者疾病患難之急務未能或之先也

宜且以國字行之者欲及寒郷開口望哺者也

於是乃吾儕拜之曰賜民藥方謹而口授筆受

焉仍舊貫其可忽哉今茲辛未春遂上梓予雖

不肖乎所藏方者亦欲附驥尾當仁苟所不辭

也阿部正興再拜併跋

序

重刊

阿部氏藏板

奥州須加川

施本
不許
賣買

製本所書肆

江戸馬喰町二丁目角

西村屋與八

